

## 123. 2023 ほほえみ広場 “つなごう” ～過去から未来、人と人、社会と障害者～

公益社団法人京都市身体障害者団体連合会 伊吹 文明

### 概要

「2023 ほほえみ広場」は障害者の社会参加を推進し、共生社会の実現を目指すためのイベントとして、京都市を中心に活動している身体・知的・精神障害者の当事者団体や関係機関等が主体となり、開催いたしました。障害者が施設で自ら作製した商品の販売や舞台パフォーマンス・啓発動画の上映、障害者スポーツや手話・点字の体験などを通じて、障害者や障害を理解することにより、地域で共に暮らす社会を実現するための重要な役割を果たしました。

これまで、京都市の主導で開催されていた「ほほえみ広場」が廃止されたことを受け、当事者団体として、次の企画を中心により充実した形で実施することができました。

#### 1. 授産製品販売及びバザー

障害者が自ら作製した商品を販売する場としての販売ブースを設置。販売品には授産製品の多様なアイテムや食品が並べられ、来場者が購入する際のやり取りを通じて、相互理解を深めることにより、障害者の社会参加が推進されました。

#### 2. 障害者パフォーマンスおよび動画上映（ステージ企画）

会場ステージにおいて、障害者によるパフォーマンスを実施。また、障害者団体の活動動画や啓発動画を上映することで、参加者に多くの情報提供が行われ障害者への理解をより一層深めることができました。

#### 3. 式典および企業取組紹介

障害者雇用に積極的に取り組んでいる企業の紹介を行い、障害者雇用や雇用継続について企業の取り組みを広めました。企業の社会貢献活動を紹介することで、他の企業や団体にも障害者雇用に対する関心を促進しました。

#### 4. 協賛企業の出展

協賛企業に対し出展の機会を提供し、イベントに活気を与えるとともに、社会的責任を果たす企業活動を広めました。

また、前回よりも出展数を増やし、イベント規模を拡大しました。

#### 5. 相談ブース及び体験ブースの設置

相談ブース（就労相談・聞こえの相談）、体験ブース（手話・点字・障害者スポーツ体験）を設置。来場者は、障害者の生活をより理解し、実際に障害者の生活環境を体験できる場として非常に好評で障害者への認識を深めることができました。

#### 6. ワークショップ

障害者施設による、親子でできるハロウィンオブジェ等の制作体験（ワークショップ）を実施し、参加者と共に楽しい時間を過ごしました。

子どもの頃から障害者との交流を図ることが大切であり、交流の機会を広げることにより、障害者への理解促進を図ることができました。

以上のように、各種の企画を通じて、障害者と市民が直接交流し、障害や障害者を“全く知らない”から“少し知っている”に変えることにより、障害者の社会参加が推進され、共生社会に向けた意識の向上が図られました。

## 背景および目的

平成23年度から京都市の委託を受けて実施してまいりました「ほほえみ広場」では、京都市主導の下、梅小路公園にてバザーや模擬店、授産製品の販売。また、屋外ステージでは障害者週間のポスター入賞表彰や障害者等によるパフォーマンスなどを実施してまいりました。障害のある方が作成した商品などを自ら販売することにより、就労意欲を高める効果があり、また、お客様とコミュニケーションをとり、障害のある方を身近に感じていただくことができ、さらにはステージでのパフォーマンスを通じて、多くの方に障害のある方に対する理解を深めていただけるイベントとして各当事者団体が非常に重要な事業と位置づけ、取り組んでまいりました。また、京都市において身体・知的・精神の三障害が一堂に会して実施する数少ないイベントであり、障害当事者の相互交流の場、市民との交流の場としての役割も担ってまいりました。

しかしながら、令和4年度の京都市予算では多くの障害保健福祉関連事業、特に補助制度やイベント等についての縮減・廃止といった過去に類を見ないほどの見直しが行われ、長年取り組んで参りました「ほほえみ広場」が廃止となりました。

こうした交流の場や市民啓発の場が失われていく中で、我々、当事者団体として何ができるのか考えた結果、やはり、これまで先人たちが繋いできたイベントを我々の代で終わらせるのではなく、改革の機会ととらえ、これまでの京都市主導ではなく、身体・知的・精神・親の会など当事者団体としての特色を活かした、未来へ繋ぐ新たなイベントとして開催したところです。

## 成果

「2023ほほえみ広場」の開催において、以下の成果が得られました。

### 1. 授産製品販売およびバザー

・障害のある方々が作製した商品がバザーや販売ブースで並べられ、多くのお客様とのコミュニケーションをとることができました。特に、障害者が自ら商品の販売を行うことで、就労意欲の向上と社会参加の意識が高まりました。

### 2. 障害者啓発パフォーマンスおよび動画上映（ステージ企画）

・ステージ企画では、障害者や関係者によるパフォーマンスの実演が行われ、障害者の能力や表現力に対する理解が深まりました。また、ハイブリッド方式で動画上映も行い、幅広い参加者にイベントのメッセージが届くこととなりました。

### 3. 式典および企業の取組紹介

・企業の障害者雇用に関する取組が非常に好評で、企業の社会貢献活動としても注目されました。この取り組みを今後も続けることが必要とされ、多くの企業がイベントに関心を示しました。

### 4. 協賛企業出展

・協賛企業の出展により、会場の賑やかさと盛り上がりが増し、来場者にとっても魅力的な環境が提供されました。

### 5. 相談ブースおよび啓発・体験ブース

・京都市中小企業家同友会からの協力を得て、就労相談ブースが設置され、多くの障害者が就労に関するアドバイスを受けました。

・体験ブースでは、手話や点字、障害者スポーツなどの体験が行われ、来場者は障害のある方に対する理解を深めることができました。

## 今後の展望および課題

本イベントは、障害者の社会参加を推進し、障害者が地域で共に暮らすことができる共生社会の実現を目指し開催しています。そのためには、本イベントで実施する授産製品の販売やパフォーマンス、体験を通じて障害や障害者を少しでも知っていただくことが、障害者の社会参加や地域での共生社会に繋がるはじめての一步だと考えています。

この小さな一歩を何度も繰り返し実施していくことにより、市民の意識の向上、障害者に対する理解を深めることができるため、今後も引き続き継続していくことが何よりも大切だと感じています。

より多くの市民の参加を得ることや安定した財源の確保が今後の課題として挙げられます。障害当事者団体・関係機関や多くの企業との連携をさらに強化し、取り組むことが重要だと考えます。

(完)